

令和2年度 学校教育計画

7 3 長野県塩尻志学館高等学校

| | | |
|----------|---|--|
| 教育理念 | — 真理の探究 — 自他の敬愛 — 責任の完遂 | |
| 学校教育目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会におけるグローバル化・情報化の進展や産業技術の発展をふまえるとともに、生涯にわたる人間形成の基礎を培い、多様な科目を開設して生徒の個性を伸長させる。 2 将来の職業選択を視野に入れた進路設計への自覚を深めさせ、社会の変化に主体的に対応できる心身ともに健康な人材を育成する。 3 マンツーマン指導を基本として、個々の生徒の興味・関心・能力・適性及び進路等にきめ細かく対応し、それぞれの希望する進路実現を支援する。 | |
| 中期目標 | <ol style="list-style-type: none"> (1) ライフプランを考え、第一希望で進路実現させ得る組織的な学校づくり (2) 体系化されたキャリア教育のシステムによる「生きる力」を育成する学校づくり (3) 授業等の様々な学習活動を通じて、健康な心身と体力を育成する学校づくり (4) 地域社会と連携し信頼される、開かれた学校づくり (5) 知識の確実な定着と実践的思考力を養う、魅力ある授業の研究 (6) 特色ある系列と進路実現に有効な科目選択の研究 | <p style="text-align: center;">総合評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策に迫られた一年間であった。長期の休校で授業時間が削減された。行事の中止や変更、夏季休業の短縮など年間行事予定を変更し授業時間の確保に努めた。学習時間の確保について100%とは言えないもののできる限りの対応はできた。 ・休校中の学習指導について、課題の郵送、学校HPでの課題提示などを行った。一部で動画配信もしたが、家庭ごとにネット環境が違い任意の視聴にしかできなかった。今後ネット環境の整備が必要だが、家庭負担等が課題となる。 ・新学習指導要領への向けて、また県教委の新しい「学びの指標」について、特に教員の意識改革、指導時間確保等の問題提議がなされ他校に先駆けて議論が始めることができた。 ・公開授業はできなかったが、体験入学や中学校訪問で中学校への情報発信はできた。 ・感染予防のための消毒や健康チェックについては、計画的に行うことができた。 |
| 今年度の重点目標 | <ol style="list-style-type: none"> ① 適切な科目選択や系統的・体系的キャリア教育の展開、学力向上による進路実現を目指す取り組み ② ICTの活用と生徒一人ひとりの探究的な活動の支援を通し、「生きる力」を育む学校づくり ③ 地域社会、保護者との連携、中学校との情報交流による開かれた学校づくり ④ 生徒に寄り添い、いじめや体罰のない、安心安全な環境の確保 | |

部署別重点目標

| 部署 | 今年度重点活動(評価項目) | 重点目標 | 到達目標(評価の観点) | 評価 | 成果と課題 | 改善策 |
|------|---|------|--|----|---|--|
| 教務 | 1 生徒が安心して学校生活を送り、確かな学力と豊かな人間性を育めるよう他部署との連携を図り、円滑な学校運営を行う。 | ①②④ | ア 月暦・日課等の周知徹底 イ 授業研究・授業公開の実施、サポート ウ 各種研修の推進、サポート | A | 新型コロナウイルス感染症に伴う年度前半の状況変化に対して、年暦・月暦・日課を柔軟に見直し、周知することができた。休校中は、課題配布が滞りなく行うことができ、授業のオンライン配信のための協力ができた。また、今後のICTの活用に向けての全職員への研修を行った。しかし、現在のところICT機器の不足や使用するための環境整備、職員の知識が不十分である。 | 情報機器に関する職員の研修や積極的な活用による経験の積み重ねを推進していく。また、校内だけではできないが、専門的な知識のある人材やハード面での環境整備を期待したい。 |
| | 2 本校の教育内容の充実を図り、その成果を積極的に保護者、地域、中学生に発信し、地域に理解され信頼される学校作りを目指す。 | ②③ | エ 公開授業および体験授業の充実 オ 中学生向けの出前授業・進路講話を実施し本校に対する関心を高める。 カ We bサイトの活用、ブログの発信等による本校の活動の紹介 キ 本校の特色や入学者選抜について中学生に周知していく。 | A | 「学校説明会、体験入学」については感染症対策を講じた上で実施することができた。また、中学生向け出前授業と進路講話は昨年以上に多くの依頼をいただき実施することができた。 Webサイト等による活動紹介や中学生・保護者への情報提供は滞りなくできた。しかし、授業公開については、新型コロナウイルス感染症対策のため実施を見送ったため、実際の生徒の活動を地域、保護者、中学生に見ていただくことができなかった。 | 「次年度は、上記感染症の特性が現在よりも明確になっていくと考えられる。状況にあわせて可能な形で授業公開を行うことを模索していく。 |
| 進路指導 | 1 各部署とのつながりを意識し、体系的・組織的に指導できる体制を整える。職員間で情報の共有を図る。 | ①② | ア 進路意識の向上、基礎学力の定着を図るため、各部署と連携してより効果的な取り組みを考える。 イ 大学入学共通テストなど新しい入試制度の情報を収集し、職員間で共有、対応できるようにする。 ウ 学びの基礎診断ツール（スタサポ、GTEC、模試）の効果的な活用を研究、実践する。 エ ICTを利用した学習支援（Classi、G-Suite for Educationなど）の研究や活用に取り組む。 | A | ・大学入学共通テストや総合型選抜などの新たな入試形態や、コロナの影響による就職試験への対応は、迅速に情報を集め、的確に生徒に伝えることができた。 ・新しい「学びの指標」に伴う学習評価について検討することができた。 ・志学館の「学びの継続計画」を作成することができた。 | ・ICTを利用した学習支援の活用の仕方を引き続き研究していきたい。 ・新しい「学びの指標」に伴う学習評価について、引き続き全職員で共有し対応していく。 ・今後も高大接続改革の動きを全職員で共有し対応していく。 |
| | 2 自らの目標、進路実現に向けて、主体的に行動できる生徒の育成を図る。様々な資格試験等の受験を奨励する。 | ①② | オ 補習授業（桔梗塾含む）、勉強クラブ、各種検定に意欲的に取り組む生徒を増やす。 カ ポートフォリオを利用し、目標設定・振り返りの習慣化を図る。 キ 進路通信、志学の時間を通して、進路意識の啓発に努める。 ク 生徒一人一人の状況に対応し、進路実現ができるように支援する。 | A | ・全学年、ポートフォリオを利用し振り返りを行うことができた。 ・進路通信、志学の時間を通して、進路意識の啓発に努めることができた。 ・小論文指導、面接指導など全職員に協力していただき、生徒の進路実現を支援できた。 | ・模試や検定など具体的な目標をもたせ、継続的な学習ができるように工夫する。 ・キャリア推進との連携を深めていきたい。 |

部署別重点目標

| 部署 | 今年度重点活動(評価項目) | 重点目標 | 到達目標(評価の観点) | 評価 | 成果と課題 | 改善策 |
|----------|---|------|---|----|---|---|
| 生徒支援 | 1 「対話と共感」、「自立と支援」の生徒指導 ①基本的生活習慣の確立 ②服装・頭髪等の身だしなみを整える ③貴重品の管理, 携帯・スマホ利用に関する注意喚起 ④交通事故の未然防止 | ②③④ | ア. 職員の共通理解と意識を統一し、生徒への声かけを大事にする。 イ. 学習、行事、生徒会、クラブ活動を通して、学校生活の積極的な意義を見出すよう指導援助する。 ウ. 交通安全指導を折りにふれて行ない、生命を尊重し安全を確認して行動する習慣を確立させる。 | A | ・生徒動向を職員間で共有し、生徒支援に努めることができた。 ・校内巡視を実施した。 ・盗難被害は無く、部室の施錠については改善されてきた。 | ・職員間での情報共有、保護者との連絡を密にし、多くの目で見守る生徒支援に努める。 ・各種講演会の充実や、機を捉えた注意喚起を行い、規範意識や自己管理能力を育てる。 |
| | 2 いじめを出さない学校づくり ①いじめに対する未然防止、早期発見、早期対応、再発防止を組織的に取り組む ②常に開かれた相談態勢を整える | ③④ | エ. 家庭との連絡や相談、スクールカウンセラー等の有効活用などで生徒や保護者を支援する。 オ. HR担任、教科担任、生徒会、クラブ顧問との連絡を密にし生徒個々の動向を明確に把握できるようにする。 | A | ・面談やアンケート等の活用により、いじめの未然防止に努めることができた。いじめに対し早期対応を心掛ける。 ・専門機関とも連携し対応することができた。 | ・面談やハイパーQ.U.、アンケートは継続して行なう。 ・支援の必要な生徒には、相談室を窓口にも各部署・専門機関と連携をとり対応する。 |
| キャリア教育推進 | 1 総合学科の特徴を活かして社会の変化に対応したキャリア教育を行う。 | ①②③ | ア. 科目選択が生徒にとって自己の可能性を広げる機会となるよう、また教育課程の変更則したシステムや指導方法を見直し、工夫することができたか。 イ. 生徒が10年、20年先の社会を見通して自分の将来を考え、社会の一員となる自覚を持てるよう指導することができたか。 | A | 科目選択における帯表やスケジュール等を改革することができた。指導方法や学習計画についてはより良い方法を研究したい。 | 科目選択前のタイミングで生徒が自らの進路を考えた行動ができる機会を学習計画の中で立案する。 |
| | 2 キャリア教育に係わる「探究的な学び」を計画・実行する。 | ①②③ | ウ. 個々の生徒が将来の具体的な目標を定め、積極的に学習に向かう姿勢を持たせることができたか。 エ. 高大接続改革に対応できるよう、生徒にポートフォリオ作成の意義や目的を明確にしその活用を促し、進路実現へ結びつけることができたか。 | A | 「探究的な学び」を意識しながら各学年のキャリア学習計画を立て実践することができた。 | 蓄積したポートフォリオを、キャリア学習および高校生活全体の省察に役立てられるように活用する。 |
| | 3 地域との連携を深め、総合学科高校としての本校の魅力を高める。 | ①②③ | オ. 「シオジリ学」を全学年で取り組む学習プログラムとして体系化することができたか。 カ. 生徒の活動や学習成果を広く発信することができたか。 | A | 1年「キニナル」では新たに地域課題に取り組む学習を計画できた。2, 3年の学習へ繋げていきたい。 | 2学年の学習内容を一部見直しつつ、3年間のつながりを意識した学習計画を作成する。 |
| 生徒会 | 1 生徒会活動に参加することにより、豊かな人間性を育て、相互理解を深める。 | ①②④ | ア 生徒会活動を通し、生徒相互の関わりを深め、コミュニケーション能力の向上を図る。 イ 目標の達成を目指し、継続的な努力をする事で、高校生活に対する達成感を持たせる。 | A | 委員会活動や部活動を通じ、生徒相互のコミュニケーションを深めることができた。また、目標の達成に向けて協力することができた。 | 全校に各委員会の活動を知ってもらおう工夫や委員会相互で協力できる体制を考える。部活動も同様に各部の目標周知や応援し合える学校にしたい。 |
| | 2 生徒自らが自覚と責任を持って活動することにより、主体性をはぐくむ。 | ①②④ | ウ 明確な目的を持たせ、立案、企画運営を行わせる事で、リーダーとしての資質を向上させる。 エ 生徒会活動を通し、ひとりひとりの役割を理解することで、互いに協力する関係をつくる。 | A | コロナの影響により行事等の変更をせざるを得なかったが、その都度生徒が話し合いを重ね、新しいものを企画する姿が見られた。 | 見直しを持たせ、早い段階から計画・立案を促す。しばらくはコロナの影響で行事変更等が予想されるため様々なバリエーションを用意できるよう生徒の自主性を大切にしながら支援する。 |

部署別重点目標

| 部署 | 今年度重点活動(評価項目) | 重点目標 | 到達目標(評価の観点) | 評価 | 成果と課題 | 改善策 |
|--------|----------------------------|------|---|----|--|---|
| 図書・視聴覚 | 1 図書館運営の充実を図る。 | ①②④ | ア. 図書館利用の活性化を図る。 イ. 生徒の読書活動の向上を図る。 ウ. 図書委員会による積極的な広報活動を行う。 エ. 生徒の探求活動に沿った蔵書の拡充を図る。 | A | 図書館での探究活動中、困っている生徒に対して支援することができた。コロナ禍で、図書委員会の企画は中止にせざるを得ないものもあったが、生徒の店頭購入で選んだ本の、貸し出し数は伸びた。読書時間の朝読書は生徒の読書活動の向上を図るきっかけ作りにもなるので続けていきたい。 | 引き続き探求的な学びを深める図書館としての機能を果たせるよう努力したい。図書委員会を中心とした生徒の主体的な活動が活発に行われるよう支援していきたい。 |
| | 2 視聴覚教育の充実を図る。 | ①②④ | オ 視聴覚教室・視聴覚機材の教育活動への利用拡大を図る。 カ 芸術鑑賞の円滑な運営を行う。 キ 芸術鑑賞を通して、豊かな心を涵養する。 | A | コロナ禍で必要となった、遠隔会議に使用する機材を購入し、活用できるようにした。芸術鑑賞は中止となってしまったため、来年度に向けて調整を行った。 | 視聴覚機材を必要な時に使用できるように、管理を徹底していきたい。 |
| 保健厚生 | 1 校舎内外の美化・清掃の強化 | ② | ア ゴミの分別と減量化・生徒の取り組みの強化 | A | ゴミステーション当番、大掃除連絡等、清掃美化委員全員が関わる体制を継続・構築できた。 | リサイクル品の分別や洗浄の呼びかけ等、各委員が更にクラスへ伝達できるようにしたい。 |
| | 2 検診のスムーズな運営と性教育・薬物教育の充実 | ①②③④ | イ. 保健委員会と職員の協力体制を強化する。 ウ. 外部講師の精選と教育方法の研究をする。 | A | イ、ウともに例年と異なる実施形態となったが、職員の協力があり実施できた。 | コロナの影響があるかもしれないが、ご協力をお願いしたい。 |
| | 3 職員厚生の充実 | ②④ | エ. ストレスの軽減とリフレッシュ行事の推進 | A | コロナ禍の中、校内でできる最大限の研修を実施し、親睦をはかることができた。 | 来年度もスポーツをベースに、研修を実施したい。実施可能な親睦会を検討したい。 |
| 渉外 | 1 総会・学年・学級PTAの充実を図る。 | ③④ | ア. 総会・学年・学級PTA企画し内容の充実を図る。 | B | コロナ禍により安全・安心を最優先として役員会に総会機能を持たせ最小限で実施した。 | 来年度も4月当初の総会実施は見通しが厳しいと感じるが、本年の運営ノウハウをもとに充実を図りたい。 |
| | 2 PTA活動参加拡大に向けた広報活動の充実を図る。 | ③④ | イ. 寄せ植え研修会やPTA研修旅行に向けた広報活動に勤める。 ウ. 文化祭展示、PTA会報などの広報の充実を図る。 | A | 寄せ植え研修会は実施することができた。 | 寄せ植え講習会など多くの保護者が密になる状況避け、家庭で楽しめる企画とするなど工夫を要す。 |
| | 3 保護者との連携強化を図る。 | ③④ | エ. 各種PTA研修について充実を図る。 オ. 強歩大会での援助、豚汁提供など学校行事との関わりを深める。 | B | 予定された研修の大半が中止となり、コロナ禍で制約条件が多い中、例年通りには実施できなかった。 | PTA関連行事すべてにおいて生徒・保護者と家庭の安心・安全が第一であり、コロナ禍で様々な制約が課されることが予想されるが、感染状況を踏まえ臨機応変に対応できる柔軟な組織の在り方を検討したい。 |
| | 4 同窓会との協力強化を図る。 | ③④ | カ. 行内体制と協力強化を図る。 | A | 創立110周年に向け実行委員会を通して、コロナ禍での式典の在り方や記念品など議論を進めてきた。また協力強化を図ってきた。 | 次年度は創立110周年記念事業の実施年度になるため、生徒にとってより重みのある企画となるよう同窓会と協力していきたい。 |

部署別重点目標

| 部署 | 今年度重点活動(評価項目) | 重点目標 | 到達目標(評価の観点) | 評価 | 成果と課題 | 改善策 |
|------|-------------------------|------|--|----|--|--|
| 1 学年 | 1 基本的な生活習慣の確立 | ①② | ア. 安定した生活のリズムをつくらせることができたか。 イ. 家庭との連絡が密にとれたか。 | A | 落ち着いた生活を送ることができたが、不安定な生徒、今後が心配な生徒がいる。 | これからも注意深く指導していきたい。 |
| | 2 学習習慣の確立 | ①②③ | ウ. 家庭学習の習慣化に向けてはたらしかかけができたか。 エ. 学習意欲を高めさせ、科目選択への意識付けができたか。 | A | 前向きに学習に取り組んでいる生徒が多い。模試等の結果からも一定の成果がみられた。 | 自分の選択した科目に責任をもち、さらに前向きに取り組めるよう声をかけた。 |
| | 3 相互理解を深める | ②③④ | オ. 互いに尊重し合える関係が築けるようにアドバイスできたか。 | A | 産社の内容を工夫し、コロナ禍でも多くの課題・考えを共有することができた。 | 来年度は様々な学校行事で活躍する場を与えてあげたい。 |
| 2 学年 | 1 進路意識の高揚、集団形成と支援体制を整える | ①②③ | ア. 学年全体、進路希望別、それぞれの集団での学習活動ができたか。 イ. 進路指導部とキャリア教育推進部の連携によるCPの充実がはかれたか。 ウ. 個別に、学力・生活状況に応じた相談・助言ができたか。 | A | 学年全体では、2度の記述模試を実施するとともに、CPを中心とした進路別学習にも取り組んだ。オープンキャンパスや就業体験など、コロナ感染に最大限注意を払い、できる範囲で実施することができた。 | 学年全体で協力しながら、今後も進路別による個別の学力支援に努めていきたい。 |
| | 2 研修旅行の充実 | ②③④ | エ. 平和学習・防災学習の充実が図れたか。 オ. 訪問する各地の地理・歴史・文化について、理解を深められたか。 カ. 互いに協力し自らの責任を果たし、有意義な研修旅行になるよう指導できたか。 | B | 全国的なコロナ感染のため、中止にせざるを得なかった。事前学習については、外部講師を招いて講演会を実施し、平和学習を深めた。保護者アンケートを実施し、今後の情勢を踏まえて代替案を検討してきたが、感染拡大が収まらず、年度内実施は困難と判断し、中止とせざるをえなかった。 | 次年度、機会をとらえて防災学習についても学習を深めていきたい。 |
| | 3 相互理解を深める | ③④ | キ. 互いに尊重し合える関係が築けるようにアドバイスできたか。 ク. 家庭との連絡が密に取れたか。 | A | 健康チェックカードを使い、各家庭との連絡を密にして、欠席する生徒の健康状況を把握できた。また、生徒会活動など中心的役割を担う学年として、クラス・学年の交流を広げられるように努めた。 | 各担任が、さらに家庭と連絡を密に取りながら、学年全体で把握していきたい。また、個々の生徒の活動や状況を見守っていきたい。 |
| 3 学年 | 1 進路実現への指導、支援体制の充実 | ①②③④ | ア 学習意欲の向上、資格取得へのアプローチを図る。 イ 個性や適性などに応じた進路指導をする。 ウ 新しい受験制度に対応して、受験準備など計画的に活動できるように支援する。 | A | コロナ禍により進路指導は出遅れたが係と協力して適切に進めることができた。国公立大学への進学者もあり、全体として生徒の希望する進路を保証できた。 | 共通テストに向けてさらに研究を深める必要がある。 |
| | 2 コミュニケーション能力の向上 | ③④ | エ 互いに尊重しあえる関係が築けるようにアドバイスする。 オ 家庭との連絡を密にとる。 カ 社会の一員となるためのコミュニケーション能力を育成する。 | A | コロナウイルスの感染拡大の中、感染への注意や罹患者への誹謗中傷などの人権問題への意識を高めるなど、互いに尊重しあえる関係が築けるように指導できた。 | 円滑なコミュニケーションをはかるため、多くの場面で思考・判断・表現の能力を育成する必要がある。 |
| | 3 学校生活の充実と最上級生としての活動支援 | ①②③④ | キ 学校・生徒会行事において責任ある活動ができるように支援する。 ク 規範意識を向上させ、社会性を身につけさせる。 | A | 学校・生徒会行事もコロナ禍により限られたものになったが、リーダーシップを発揮して活動できた。 | 生徒会活動を通じてさらに主体的に考えて行動する能力を高める必要がある。 |